

三郷市教育委員会

1 三郷市の概要

三郷市は、「きらりとひかる田園都市みさと～人にも企業にも選ばれる魅力的なまち～」を目指し、県下でも発展著しい元気なまちである。早場米の産地としての歴史的風情を継承しながらも、新三郷駅周辺に大型ショッピングモールを抱え、関東近県から首都近郊都市として注目されている。



本市の教育の特長は、三郷市「教育の三つの宝」、ならぬことはならぬ「授業の心得」の徹底、日本一の「読書のまち三郷」づくり、親が親であるための「親の学習」を柱とする市民総ぐるみの教育である。そのためには、教育委員会が魅力ある施策を展開すること。校長会からの施策の発信すること。各学校から特色ある学校づくりを発信すること。児童会・生徒会から発信すること。親の学習、育成会、読書ボランティアなど市民から発信すること。それぞれの立場からの主体性ある発信を実現することが本市の教育の充実・発展に寄与するものととらえている。

2 研究の構想

(1) 研究の推進組織体制



・前川中学校と学区小学校3校の学校長を中心とした小中連携連絡協議会を立ち上げる。
・コーディネータの支援を受け、研究を推進する。

・24年度は、前川中・戸ヶ崎小を研究センター校に置き、小中学校教員の授業を代替するための非常勤講師を配置し研究を推進した。
・他の2校の小学校は研究協力校とし、学級アセスメント実施・児童生徒の連携を中心とした研究を推進した。

3 研究の取組事例

(1) 小中一貫に係る人員の配置

① 小中連携コーディネータの配置

小中学校の連携を進めるに当たっての調整役として、小中連携コーディネータを配置した。その結果、校長をはじめとする教職員間の連携が円滑に行うことができた。

② 小中相互授業交流を行うための非常勤講師の配置

小中学校の授業を通じた、教職員の小中相互授業交流を行うために、非常勤講師を前川中学校に配置した。非常勤講師を活用し、英語科の教員が小学校に

出向き、外国語活動のTTとして授業を実施した。このことにより小中学校の教員間の連携が図れ、中学校の教師は児童の様子を把握することができた。

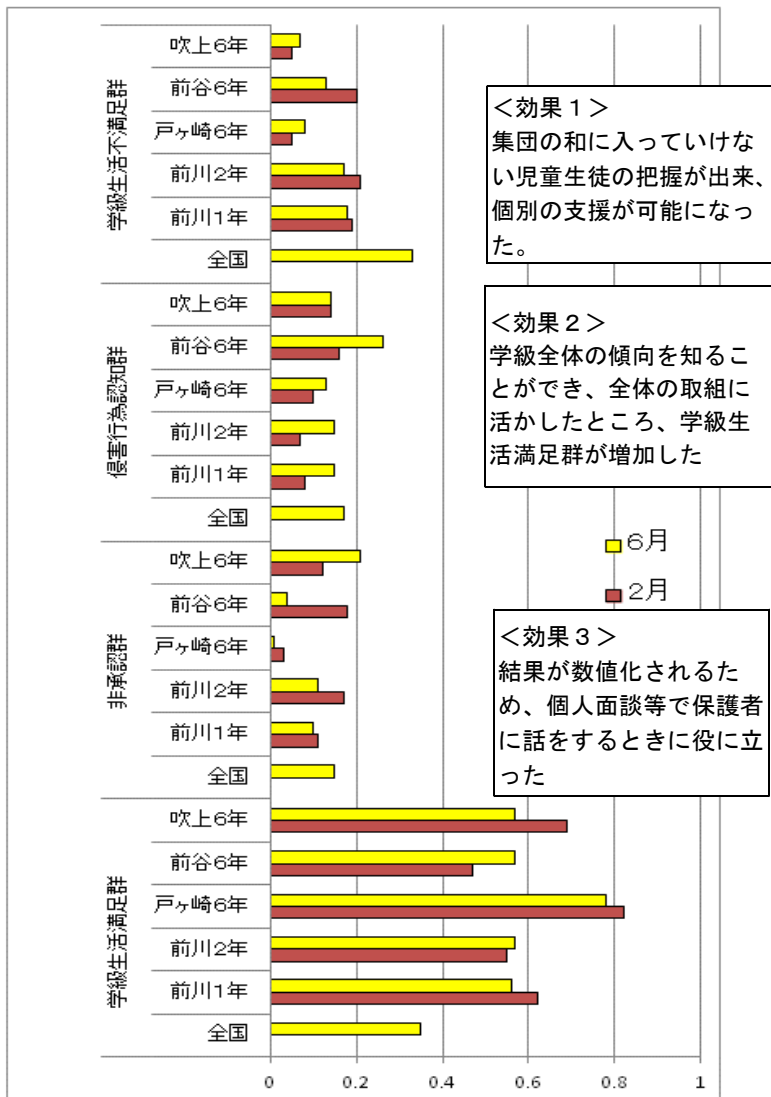


③ いじめ・不登校対策すこやか支援員の配置（光を注ぐ交付金事業の活用）

小中連携をより円滑に推進し、前川中学校の不登校対策の一つとしての「いじめ・不登校対策すこやか支援員」を配置した。さわやか相談室と連携した個別指導や登下校時のパトロール・部活動の補助を行った。その結果、前川中学校の家庭訪問件数は大きく増加し、連絡の取りにくい家庭にも家庭訪問をすることが出来た。



(2) 学級アセスメントの実施（効果検証）



実施校・学年	6月	2月
学級生活不満足群	33%	
全国	33%	
前川1年	18%	19%
前川2年	17%	21%
戸ヶ崎6年	8%	5%
前谷6年	13%	20%
吹上6年	7%	5%
侵害行為認知群	17%	
全国	17%	
前川1年	15%	8%
前川2年	15%	7%
戸ヶ崎6年	13%	10%
前谷6年	26%	16%
吹上6年	14%	14%
非承認群	15%	
全国	15%	
前川1年	10%	11%
前川2年	11%	17%
戸ヶ崎6年	1%	3%
前谷6年	4%	18%
吹上6年	21%	12%
学級生活満足群	35%	
全国	35%	
前川1年	56%	62%
前川2年	57%	55%
戸ヶ崎6年	78%	82%
前谷6年	57%	47%
吹上6年	57%	69%

(3) 小中学校教職員の交流・意識改革

- ① 前川中・戸ヶ崎小の小中合同研修会を実施した。
日時：平成24年8月29日（月）13：00
場所：鷹野文化センター
内容：小中連携コーディネータからの講義
生徒指導・学習指導・特別活動の3分科会で情報交換を実施した。
- ② 小学校教師による中学校での授業参観を実施した。
戸ヶ崎小学校全ての教師が、順番に中学校へ行き、参観をした。
登校時あいさつ運動・授業参観・部活動等の見学をした。

成果

- 小学校の教員が中学校の見学を通して中学校の雰囲気、姿勢を全教職員が知ることができた。
- 規律を身に付けることと併せて、個を尊重する教育を小学校から行い、児童生徒の心の成長を図ることが重要であることが分かった。また、中学校の取組を小学校にも取り入れていきたい。

(4) 児童生徒の交流

- ① エコキャッププロジェクトの実施
前川中学校生徒が、学区内小学校を回り回収活動を実施した。
- ② 学区内小中学校での交流事業の実施



小学校夏季補習支援



英語での読み聞かせ



小学生部活動体験

- ③ 三郷市いじめ撲滅事業～豊かな体験活動推進委員会～
三郷市内小中学校の児童会・生徒会を中心とした小中連携



育てた花の交流会



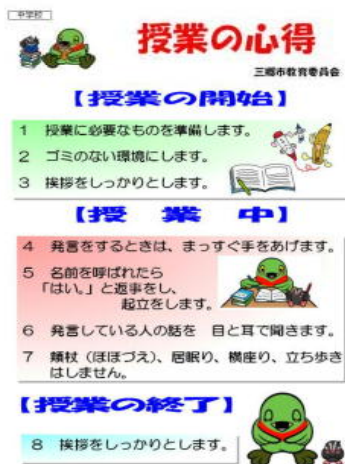
前川中学校区会議



小中でプランターづくり

(5) その他特色ある市町村の取組

- ① 授業規律の徹底「授業の心得」



平成20年度2月に、市内児童生徒の授業を受けるべき姿を示した、「授業の心得」を提示し、平成21年度より全小中学校で共通して取り組んできた。

校長会、教頭会、教務主任会、生徒指導特別委員会で、継続した取組を推進した結果、平成23年度は、すべての学校で定着が見られ、授業中の児童生徒の姿としてあらわれている。

具体的な取組としては、児童生徒の自己評価によるアンケートでの検証(学期に1回)、学校公開時に来校する保護者や、地域住民によるアンケートでの検証を実施した。現在、市内小中学校全ての教室に掲示されている。

② 日本一の「読書まち三郷」づくり

ア. 本市の読書活動は、日本一の「読書まち三郷」を掲げ、全学校図書館への専任司書の配置により、小中学校の学校図書館が充実した。その他にも第5回を迎える読書フェスティバル、読書標語、読書ゆうびんの取組、家読(うちどく)推進など様々な取組を推進している。

イ. 読書のまち三郷推進資料「言葉の力」



子どもの成長と共に生涯を通じて読書に親しむことのできる教材として作成した。小・中学生の多感な成長期こそ、良書に出会わせたい、と言う願いをもとに作成した。

「論語」「説明文」「詩」「短歌」「俳句」「伝記」「民話」等を掲載した。

4 研究成果及び今後の課題

(1) 本市中学校不登校生徒数の推移

	21年度	22年度	23年度
中学校1年	31	9	7
中学校2年	41	34	15
中学校3年	68	37	23
合計	140	80	45
不登校の割合	4.20	2.41	1.36

○前川中学校不登校生徒の推移

	21年度	22年度	23年度
中学校1年	8	2	3
中学校2年	5	7	1
中学校3年	13	3	6
合計	26	12	10

*平成23年度は1月末

(2) これまでの小中連携を含めた不登校対策により、本市の課題であった不登校生徒の数は激減した。同時に非行問題行動も減少し、授業に望める環境になった。

今後は、生徒指導を核とした小中連携を進め、積極的な生徒指導を推進していきたい。